

中野 寛之 議員



録画
配信中



一問一答方式

- ① 新型コロナウイルス感染症対策
- ② 産後ケア事業
- ③ 防災・減災対策
- ④ 犬猫殺処分対策
- ⑤ 市立大洲病院内のフリーWi-Fi環境整備
- ⑥ 学校教育

新型コロナウイルス感染症対策について

問 接種開始時期の課題である約1万6千人の65歳以上の対象者に対して、現時点では十分なワクチン量が確保できない可能性が高いが、どのような優先順位でワクチン接種を検討しているか。

答 4月下旬から高齢者の接種を開始するよう準備していますが、

4月中に本市に配布されるワクチンの量は限定的で十分な量が確保できないため、予約受付を一齐に開始できない状況です。

このことは全国的に同様で、例えば高齢者施設に入所している方から接種開始する案や、80歳以上の方から接種開始する案などが検討されています。

本市においても、高齢者の中でさらに対象者を細分化して実施する方法を検討しており、実施方法が決まり次第、速やかにお知らせしたいと考えています。

産後ケア事業について

問 コロナ禍で里帰り出産や親世代によるサポートが非常に困難となり、出産、育児の不安からか出生数も今年急減している。

今後、産後ケア事業の拡大も必要と思うが、見解をお聞きます。

答 産後ケア事業は、4月から開設する子育て世代包括支援センターの事業の一環として行うもので、出産後は心身ともに不安定な状態となる母親もあり、さらに慣れない育児や夜間の授乳などで疲れた母親の心身の回復や育児指導をサポートする目的です。

市内の産婦人科医院の協力を得て行う日帰り型と宿泊型の2つのサービスで、赤ちゃんをスタッフに預けて母親はゆっくり休むことができ、身体的・精神的なケア、授乳指導、育児・生活指導などを受けていただきます。特に、宿泊型は助産師やスタッフに24時間相談できる体制となっています。

利用対象者は、大洲市に住所を有する出産後1年未満の母親と乳児で、支援が必要と市が判断した方となっており、通算7日間まで利用できます。

なお、医療機関の状況により産後ケア事業を利用できない場合も考えられますが、市では保健師や助産師が自宅を訪問して指導や相談支援も行っています。

また、県外へ里帰りできない方や、県外にいる家族から産後の支援が得られない方などへの必要なサービスの拡充も検討していきたいと考えており、今後も妊産婦の方の要望に応じて、関係機関と連携して市内で安心して子育てができるよう取り組んでいきます。

市立大洲病院内のフリーWi-Fi環境整備について

問 市立大洲病院でも入院患者の面会制限が続いているが、家族と十分なコミュニケーションが取れるような配慮は必要である。

現在は1階の外來受付で、えひめフリーWi-Fiが使用可能だが、各フロアの談話室内でも利用できるように検討できないか。

答 現在、病棟でのWi-Fi利用は電波が届かないため入院患者の利用は難しい状況です。

各病棟では、電子カルテや多くの医療機器にWi-Fiを使用しています。以前は、それぞれの機器の電波が干渉し、不具合が一部発生していましたが、昨年度に院内病院情報システムを更新し、順次調整してきたため、現在では無線環境の改善が図られています。

今後は、家族とコミュニケーションが取れるよう、電子カルテをはじめ院内情報システムの電波状況に配慮しながら、各病棟のデイルームにアクセスポイントの増設を検討し、入院患者の利便性向上に努めたいと考えています。